

学校名： ●●●●●立 ●●●中学校 授業者： ●● ●●

教材作成者： 安芸太田町教育委員会 ・ 戸河内中学校 原田優次

授業日時	平成●●年●●月●●日●時間目	教科・科目	道徳
学年・年次	3学年	児童生徒数	●●人
実施内容	C (12) [社会参画, 公共の福祉] 「公害の街から環境の街へ」	本時/この内容を扱う全時数	●/2
教科書及び教科書会社	引用文献・参考文献 「みんなで守ろうきれいな地球」 北九州市環境局 平成 19 年 「北九州市環境施策ハンドブック～公害克服から持続可能な社会へ」 北九州市 JICA IGES 「公害克服の歴史」 北九州市市政ラジオ番組 北九州トークウィズユー 平成 25 年 10 月 4 日 「公害克服経験における社会的アクターの関係」 法政大学人間環境学部 藤倉良 2004 年 4 月 20 日		

授業のねらい (本時の授業を通じて生徒に何を身につけて欲しいか、この後どんな学習につなげるために行うか)

北九州市の公害克服の歴史を通して、「社会参画の意識」と「社会連帯の自覚」に気づき、「公共の精神」を持ってよりよい社会の実現に努めようとする実践意欲を育てる。

■内容項目の概要 (本教材との関わり)

「社会参画の意識」とは、個人が安心・安全によりよく生活するために、社会の形成を人任せにするのではなく、主体的に参画し、社会的な役割と責任を果たそうとすること。

「社会連帯の自覚」とは、一人一人が共に手を携え、協力し、誰もが安心して生活できる社会をつくっていかうとすること。

「公共の精神」とは、政治や社会に関する豊かな知識や判断力、論理的・批判的精神をもって自ら考え、社会に主体的に参画し、公正なルールを形成し遵守する精神である。

そして、「よりよい社会の実現」のためには、身の回りの問題や社会の出来事に関心を持ち、仲間と共に進んで問題を解決していかうとすること実践意欲を養いたい。その際、約束やきまりを重んじ、個人の向上と社会の発展とが、矛盾しないような在り方を探求させる。

関連する価値は、「責任」「思いやり」「公德心」「勤労」

■指導の要点 (本教材との関わり)

現代的な課題等も取り上げ、どのように社会に参画し、どのように連帯すべきかについて、多面的・多角的に考えを深めるよう指導することが大切である。

この内容項目を通じて、例えば、生徒が将来、選挙権を付与される年齢に達した際には、自分も社会の一員であるという認識のもと、積極的に権利を行使するという、主体的に社会に参画し、その発展に寄与する態度を養うという視点も重要である。

また、例えば、社会科の公民的分野での社会参画や社会連帯の在り方や公共の精神の学習など、他教科等と関連付けたり、高等学校段階への発展につなげたりすることも必要である。

(参考資料：中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」平成 27 年 7 月)

メインの課題 (授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題)

「北九州市」を始めとする日本の各都市が、公害問題を克服し、豊かな自然環境を回復して「健康で安心して暮らせる街にできたのはなぜ？」だと思いますか。

児童生徒の既有知識・学習の予想（対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。）

①授業前に、メインの課題に対して予想される回答。

- ・公害防止技術が発達した。
- ・工場が有害な排ガスや、汚染された排水を出すのを止めた。
- ・厳しいきまりができた。

②困難が予想される点。

- ・東アジアや東南アジアで起きている公害問題に対して、遅れている国の出来事であり、仕方がない問題としか捉えられない。
- ・公民や3年理科の教科書には、公害問題とそれを克服した歴史が記述されているが、すでに完結した出来事であり、未来や自分たちの生き方に関わる学習とは思えない。
- ・今回の学習で扱うテーマ「健康で安心して暮らせる環境を求める権利」「選挙権」「法の遵守」「個人の向上と社会の発展」等は、教科の学習や学校生活の中でも取り上げる内容ではあるが、自分たちの課題とは捉えきれしていない。

期待する回答の要素（本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準）

【「社会参画の意識」と「社会連帯の自覚」】

- ①社会問題（公害問題）に関心を持ち、よりよい社会の実現のために協力し、平和的・科学的に活動したお母さんたちの存在。
- ②お母さんたちの活動やマスコミの報道が、公害問題に対する関心を高め、民主的な選挙によって「よりよい社会を実現する」政治が実現した。その結果、公害問題を克服する具体的な計画が立案され、取組が実行された。

【「公共の精神」と「よりよい社会の実現」】

- ③健康で安心して暮らせる環境を回復させるため、企業が利益を削ってでも公害防止技術を開発し施設を建設したこと。そのような「法を遵守」した社会への貢献活動によって、企業が自身の存在価値を高め、環境産業の育成によってより発展することになった。
- ④市民・行政・企業が互いに協力して公害問題を克服した結果、世界の環境リーダーと呼ばれる街に発展し、「優れた生活環境。住民の健康。ふるさとへの愛着。自分が働く会社や労働に対する誇り。国際貢献を通じた信頼向上。環境産業の育成。」など、多くの成果を得て、社会がよい方向に発展した。

各エキスパート＜対象の児童生徒が授業の最後に期待する回答の要素を満たした回答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください＞

- A：「子どもの健康を守りたい」というお母さんたちの切なる願いが、婦人会の団結と市民運動に発展したこと。平和的・科学的な活動とマスコミの報道によって、北九州市民の意識が変化したこと。
- B：日本初の「スモッグ警報発令」や「婦人会の活動」「マスコミの報道」を受けた市長選挙によって、行政の公害克服の取組が本格化したこと。
- C：法を遵守した公害対策によって企業は利益の損失を生じたが、その結果、公害の克服にとどまらない多くの成果を得て、現在の街の繁栄と国際的にも高い評価を享受できたこと。

<p>シグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容</p> <p>生活の中で自分が気付いた問題に対しても、積極的に発言し、改善していこうとする意欲を高める。</p> <p>人権獲得の歴史に学んで、「権利意識」の自覚を高め、自己の権利も他者の権利も等しく尊重する態度を養う。</p> <p>よりよい社会を実現した具体的な事例を通して、「自分たちも社会を変え発展させていける」という前向きな展望を持たせる。</p>
--

本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達して欲しい目安
これまで	<ul style="list-style-type: none"> ○1・2年の道徳でも、社会参画、公共の福祉について考え、議論している。 ○公民の授業で、公害問題の発生とその克服について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級活動や生徒会活動に積極的に参画するなどの体験を生かして、社会参画や社会連帯についての考えを深めさせ、現実の学校生活に生かすことができるよう公共の精神についての考えを深めさせる。 ○かつて日本にも深刻な公害問題が発生したことと、それを克服できたことを理解する。
前時	<ul style="list-style-type: none"> ○協調学習の道徳を行うことを予告しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に意見交換していこうとする意欲を育てる。
本時 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○「公共の精神とよりよい社会の実現」について、知識構成型シグソー法を活用して考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○仲間と協力して、「健康で安心して暮らせる街にできた理由」を考え、「社会参画、公共の福祉」の自覚を高める。
次時	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒感想文を交流し、教材化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友だちが感じ、気づいた価値、そして自分が確認した価値の共通点や違いを発見し、「社会参画の意識と社会連帯の自覚、公共の福祉とよりよい社会の実現」に対する考えを深める。
この後	<ul style="list-style-type: none"> ○学級通信で、授業の様子や生徒の感想を紹介し、道徳教育に対する保護者の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が、道徳の学習を話題にして、保護者の思いを聞く機会を持ち、自己の考えを更に深める。

<p>上記の一連の学習で目指すゴール</p> <p>教科や道徳の学習、そして学級活動や行事での体験等を統合し、よりよい社会を実現するために必要な、アクティブな市民性を養う。そして、自らの行動の基準となる「規範意識、人権感覚、道徳性」の自覚を高める。自分を律し、公德心を培い、積極的に社会にかかわり、貢献していこうとする実践意欲と態度を養いたい。</p>
--

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動 (◎主発問 ○発問 ・予想される回答)	支援等
0	<p>導入</p> <p>○「しっかり考え、話し合ってください。」</p> <p>○導入発問 「東アジア諸国の公害問題を知っていますか」 「日本の公害問題を知っていますか」</p> <p>◎【発問1】「北九州市」を始めとする日本の各都市が、公害問題を克服し、豊かな自然環境を回復して「健康で安心して暮らせる街にできたのはなぜ？」だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公害防止技術が発達した。 ・工場が有害な排ガスや、汚染された排水を出すのを止めた。 ・厳しいきまりができた。 <p>○発問1について、発表の機会をもうけ、意見を確認する。</p>	<p>○活動目標にとどめる。</p> <p>○楽しい雰囲気をつくる。</p> <p>○現在進行形の課題であるとの意識を持たせる。</p> <p>○1ページ配布。</p> <p>○学習前の生徒の考えを把握し、学習後の変化と比較する。</p> <p>○理由を自由に発表させる。あまり深く追及しない。 (時間的な制約がある場合は省略)</p>
10	<p>○資料の第1部を読み、北九州市の公害の状況を把握する。</p> <p>○質問があれば受け付ける。</p>	<p>○2ページ配布。</p> <p>○教師が朗読する。</p> <p>○簡単に答える。</p>
15	<p>エキスパート活動</p> <p>A：母親たちの団結と運動</p> <p>○なぜ、お母さんたちは反対の声を上げることができたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何よりも子どもの健康が心配だった。 ・一緒に活動する仲間がいた。 ・優れたリーダーがいた。 ・マスコミも協力してくれた。 <p>B：市政を変えた選挙</p> <p>○市政と企業を「公害対策」に向かわせたものは何なのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選挙公約を守るため。 ・市長も議員も、公害対策に手を抜くと選挙に勝てないという危機感を抱いた。 ・行政や企業も「公害の街」の加害者というレッテルが恥ずかしかった。 <p>C：世界の環境リーダーへ</p> <p>○公害克服の過程で北九州市の市民と企業が、それぞれ得たものとは。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優れた環境と健康。ふるさとへの愛着。 ・国際貢献を通じた信頼向上。 ・自分が働く会社や労働に対する誇り。 ・環境産業の育成。 	<p>○各資料に基づいて「よりよい社会をつくるために大切なもの」とは何かを考え、キーワード等を使って説明できるようにする。</p>

<p>40</p>	<p>ジグソー活動について ◎発問「健康で安心して暮らせる街にできた理由」を話し合う中で、今日のねらいにせまる。 ○多くの大切なものがあるが、一番大切だと皆が考えるものを選んでみよう。 ○一番に選んだ理由を説明しよう。 ○なぜ、二番目、三番目のものより大切だと考えたのだろうか。 ○エキスパートグループで学んだことを班員に発表し、課題に対する考えをまとめ、</p>	<p>○6ページ配布。 ○班の意見をホワイトボードに記入する。 ○多くの価値に気付くと同時に、改めて順位をつけることで、課題に対する理解を深める。</p>
<p>50 休憩</p>		
<p>0</p>	<p>クロストークについて ◎発問「健康で安心して暮らせる街にできた理由」について、どのような意見交流があったのかを発表する。共通点や相違点、選んだ理由を聞いて、課題に対する理解を深める。 ○一番にあげた項目のキーワードはどんな話し合いと、思いから生まれてきたのか。 ○1班が一番にあげた項目は、他の班ではどのように話し合われたのだろうか。 ○一番にあげた項目どうしには関連があるのだろうか。どんな関連があるのか。</p>	<p>○補助発問等によって、表面的な順位付けの理由より、そこに至った話し合いの過程をクローズアップさせる。 ○他の班の意見に対する疑問があれば、積極的に質問し討議させる。</p>
<p>20</p>	<p>今日の振り返り ◎発問「健康で安心して暮らせる街にできた理由」について、各自の意見を再度記入させる。</p>	<p>○7ページ配布。 ○協調学習の評価も記入。 ○7ページ回収。</p>
<p>30 40</p>	<p>○北九州市の公害克服の歴史をビデオで視聴 ○本時に指導者が考えてほしかった道徳的価値を記入しておく。一つの考え方や生き方として教師の思いや願いを受け止めさせる。それに対する批判的な見方も許容し、自由に感想を書かせる。</p>	<p>○当時の映像で実感する。 ○8ページ配布。 ○「価値の押しつけ」や「意味不明な授業」と捉えられない終末にする。 ○8ページ回収。</p>

<p>グループの人数や組み方</p>
<p>3～4人×●グループ 基本的には生活班を活用するが、極力3人班とする。</p>